

「確率」

教頭 大塚 久司

4月に本校に赴任した時に感じたこととして、正門に右折、もしくは直進で入ってくることの難しさと、正門から出ていく際に、信号に関係なく自転車が目の前の歩道を通り過ぎていくことの危険性、そして右折の際に後方から横断歩道を渡ってくる歩行者と自転車に気を付けなければならないということがありました。

さて、4月から12月までの本校生徒の交通事故は12件発生しているとのこと。1か月平均1.3件、約65人に1人の割合で事故に遭っていることになります。この数字が多いのか少ないのかはデータがないのでわかりませんが、どれも命に係わるような大事故ではなかったことが救いです。交通事故0を目指したいと思います。

自動車に目を移してみますと、警察庁が公表する免許保有者の約8,100万人をベースに、1年間(令和4年度)の自動車事故発生件数の約30万件から計算すると、 $30 \text{ 万} \div 8,100 \text{ 万} = 0.4\%$ が1年間で事故に遭う確率となります。その逆の99.6%が1年間で自動車事故に遭わない確率となるわけです。この数字を元に、仮に20歳で免許を取得し70歳で返納したとします。そうすると運転歴は50年となり、 $99.6\% \times 99.6\% \times 99.6\% \cdots (50 \text{ 乗})$ で81.8%となります。この81.8%が運転開始から運転しなくなるまでの事故に遭遇しない確率となります。逆に18.2%の確率で一生のうちに1回は自動車事故に遭遇することになります。さらに、免許保有者の8,100万人から自家用車を持たない人(ほぼペーパードライバー)の約38%を除くと、約5,000万人が実際に日常的に運転している人の数となり、上記と同じように計算($30 \text{ 万} \div 5,000 \text{ 万}$ の50乗)すると、一生のうちに事故に遭わない確率は約74%、事故に遭う確率は約26%まで上がります。

自動車事故は年間30万件発生していて、その内訳は「自動車と自動車」が約87%、「自動車と人」が約9%でその他が4%です。自動車と自動車の事故の場合、加害者・被害者で最低でも2人が事故に巻き込まれています。つまり、30万件の87%である約26万件が自動車同士の事故であり、その2倍の52万人が1年間で加害者か被害者のいずれかの立場で、自動車事故に巻き込まれていることになります。一生のうちに何度も自動車事故をする人は少ないとすれば、1年間で事故に遭う人は前述の52万人となります。これを50年間で事故に遭遇する人にとすると最大2,600万人となる計算となり、これを免許保有者の8,100万人に当てはめると $2,600 \div 8,100 = \text{約} 31\%$ で、一生のうちに自動車事故に遭遇する確率は31%ということ。すなわち、自動車運転手の約3人に1人が自動車事故に遭遇する計算になります。

私たちはみんな、大人も子供も、自分が事故に遭うなどとは考えないで日々を過ごしています。「自分は大丈夫」という考えを誰もが持っているからです。しかし事故は誰にでも起こり得ることです。事故に遭わないためには何よりも交通ルールを守ることが一番の対策です。その次は交通マナーです。「思いやり」の心を持って運転したいものです。時間と心に余裕を持った通勤や通学によって事故は減り、誰にとっても平和な毎日が続くことになるとと思います。お互い気を付けましょう。

夢を壊してしまうかもしれませんが、最後の確率の話です。宝くじで1等が当たる確率は0.00001%だそうです。雷に打たれる確率と同じです。

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切 り 取 り -----

____年 ____組 名前_____